

内視鏡的検査時における臭化プリフィニウム (パドリン)の使用経験

大阪中央病院泌尿器科 (医長: 江里口 渉)

江 里 口 渉

USE OF PRIFINIUM BROMIDE DURING ENDOSCOPIC PROCEDURE

Wataru ERIGUCHI

From the Department of Urology, Osaka Central Hospital

(Chief: Dr. W. Eriguchi, M.D.)

Prifinium bromide was used in twenty cases to control pain and urgency during urological endoscopic procedure.

Twenty ml. of 20 % glucose and 15 mg. of prifinium bromide was given intravenously 15 to 20 minutes prior to instrumentation.

Increase of bladder capacity, prevention of leakage of urine around the instrument and easier ureteral catheterization were noted.

以前に私は尿管結石症痛発作に対し20%ブドウ糖液 20 cc と臭化プリフィニウム 15 mg の静注20例の治験を行なったが、鎮痛効果の発現が比較的遅いことが判明していたので、今回、内視鏡的検査および尿管カテーテル法にさいし、施行前15~20分に、やはりブドウ糖 20 cc と臭化プリフィニウム 15 mg 混合液を静注し、その効果を調べた。

内視鏡的検査および手術にさいしては男子患者では15分間の尿道粘膜麻酔 (キシロカインゼリー 10~15 cc) のみにとどめ、腰麻やカクテル麻酔等の前処置は行なっていない。可及的正確な判定を得るため、できる限りあらゆる年齢層に対し、男女の区別なく、at random に行なった。施行したのは全部で20例で、年齢は7~66才、男子13例、女子7例となる。

効果判定はこれを困難ならしめる因子として、患者の不安感や緊張感等による不必要な努責や内視鏡挿入時の検者の手技などを加味せねばならないが、検者は私一人であるから、これら諸因子および患者の個人差などはこのさい度外視した。また、判定基準としては、挿入時および施行中の疼痛、不快感や尿意等の訴えと、膀胱充満感を訴える液量や施行中における尿の漏出などを、尿管カテーテル法においてはカテーテル挿入時の難易などを基とした。

20例の内訳は、まず検査目的別に分類すると、膀胱鏡検査12、尿管カテーテル法5その他となる (Table 1)。Table 2 はその疾患別である。

Table 1 検査目的別分類

1) 膀胱鏡検査	12
2) 尿管カテーテル法	5
3) ドルミヤ捕石術	2
4) 膀胱碎石術	1

Table 2 疾患別分類

1) 膀胱炎 (腎結核 2 例を含む)	6
2) 腎・尿管結石	3
3) 前立腺肥大症	2
4) 膀胱腫瘍	2
5) 腎結核	1
6) 腎腫瘍	1
7) I.P. で両側腎盂像不明なもの	1
8) 膀胱結石	1
9) 水腎症	1
10) 女子内分泌性膀胱症	1
11) 本態性腎出血	1

Table 3

氏 名	性	年 令	病 名	目 的	膀胱鏡 挿入時 の疼痛	施行中 の疼痛 および 不快感	早期の 尿 意	膀 胱 容 cc	膀 胱 量	検査中 の尿意 および 尿漏出	尿管カ テ挿入 困難	注	判 定
1 城 〇彦	♂	41	膀胱炎 (腎結核)	膀 胱 鏡	—	+	—	380	—	—	—		+
2 山 〇 早	♀	27	膀胱炎 (腎結核)	〃	—	+	+	150	—	—	—	結核性潰瘍 結核性萎縮膀胱	±
3 谷 〇 佳 子	♀	7	膀 胱 炎	〃	+	+	+	90	—	—	—	恐 怖 心 大	—
4 北 〇 俊	♂	49	膀 胱 腫 瘍	〃	—	—	—	430	—	—	—		±
5 木 〇 銀	♂	38	左尿管結石	ドルミヤ 捕石術	—	±	—	390	—	—	+	不 成 功	+
6 宮 〇 郁	♂	24	右尿管結石	〃	+	+	—	330	+	—	—	成 功	±
7 亀 〇 市	♂	60	膀 胱 結 石	膀胱碎石術	—	±	—	280	—	—	—		+
8 細 〇 政	♂	59	前立腺肥大症	膀 胱 鏡	—	—	—	390	—	—	—		±
9 大 〇 広	♂	66	〃 〃	〃	—	±	+	240	±	—	—	肉 柱 形 成	±
10 浜 〇 基	♂	24	右本態性 腎出血	〃	+	—	—	340	—	—	—		+
11 和 〇 愛	♀	21	女子内分泌性 膀胱症	〃	—	+	—	300	—	—	—		+
12 上 〇 直	♀	33	右腎盂線 陰性結石	右尿管 カテーテル法	—	+	—	350	—	—	—		+
13 前 〇 道	♂	50	左腎結核	左尿管 カテーテル法	±	—	—	370	—	—	—		+
14 佐 〇 美	♂	19	左水腎症	〃	+	+	+	290	+	+	+		—
15 谷 〇 坂	♂	59	右腎腫瘍	右尿管 カテーテル法	—	±	—	350	—	—	—		±
16 陸 〇 春	♂	24	腎機能不全	両側尿管 カテーテル法	+	±	—	410	—	—	+		±
17 吉 〇 綾	♀	33	出血性膀胱炎	膀 胱 鏡	—	±	—	360	—	—	—		+
18 池 〇 あ	♀	29	膀 胱 炎	〃	+	+	—	290	—	—	—		±
19 片 〇 誠	♂	51	膀 胱 腫 瘍	〃	—	—	—	350	—	—	—		±
20 高 〇 美	♀	62	膀 胱 炎	〃	—	+	±	240	±	—	—		±

著効4例(20%)有効8例(40%)やや有効6例(30%)無効2例(10%)

Table 3 膀胱鏡挿入時の疼痛は男子患者においては多少とも避けえないものであるが、このシリーズの20例に関しては臭化プリフィニウム注の前処置を行なわなかったものより、いくぶん少ないように感じられた。

施行中の疼痛および不快感はやはりほとんどの患者が訴えており、検査手技にもよるであろうが、本剤よりも神経安定剤投与のほうが効果的ではなからうか。

膀胱容量測定時や膀胱洗浄時に訴える早期の尿意は表のごとく、大きく軽減して、特に膀胱容量に関しては、数例を除き、かなり増大しているように思われる(同一患者に本処置なしで再検査したわけではないため、その効果を断定することはできない)。

とくに尿管カテーテル法や膀胱碎石術時には強度の尿意や外尿道口からの尿漏出がよく見られるが、本シリーズにおいては2例(10%)にすぎないことから本

剤の使用は有効といえよう。

尿管カテーテル法およびドルミヤ捕石術の7例に関しては、5例にカテーテルの挿入困難が全くなかったことで、本剤の鎮痙効果ありとした。挿入困難のあった2例も挿入角度を変えたり、マンドリンを挿入したりして成功している。しかし、以前には尿管カテーテルをどうしても入れえず、カテーテル法を中止したこともあったが、最近ではほとんど全例に成功しているので、本シリーズの結果をそのまま臭化プリフィニウムの効果と判定することはできない。

症例2は潰瘍を有する結核性萎縮膀胱の患者であるが、膀胱容量150ccにもかかわらず、施行中の強度の尿意や尿漏出は認めなかった。

症例3は7才の女兒に対し臭化プリフィニウム7.5mg投与したものであるが、恐怖心大であったため、本剤の効果に関して論じえない。

私は膀胱容量測定は膀胱を不必要に敏感にするとの考えのもとに、必要な症例を除き普通は行なわないし、150 cc の液注入で尿の漏出や強度の尿意を訴える例はあまりない。本シリーズではその効果を比較する目的で膀胱容量測定を全例に施行したが、それにもかかわらず、尿漏出や強度の尿意を訴えた症例は2例であったということは、本剤の有効性を物語るものと言いえよう。

結 語

膀胱鏡検査，尿管カテーテル法，ドルミヤ捕石術および膀胱碎石術を行なった20例に，施行15～20分前に20%ブドウ糖液 20 cc に臭化プリフィニウム 15 mg を静注した。判定は困難で

はあったが，いちおう 1) 膀胱鏡挿入時疼痛，2) 膀胱鏡検査施行中の疼痛および不快感，3) 早期の尿意，4) 膀胱容量，5) 検査中の強度の尿意および尿漏出などを基とした。

20例の判定結果は著効4例(20%)，有効8例(40%)，やや有効6例(30%)および無効2例(10%)であった。インジゴカルミン排泄試験のさい，尿意強度のために排泄時間不明なまま中止した例もなく，とくに尿管カテーテル法を必要とする症例には本剤の投与が推奨される。

(1969年11月1日特別掲載受付)